



排後一甲

中村俊定文庫  
文庫 18  
96







兼子所より正史と稱し其の  
一箇の如くありて其れ  
何れ此れ如くありて其れ  
何れ此れ如くありて其れ  
何れ此れ如くありて其れ  
何れ此れ如くありて其れ  
何れ此れ如くありて其れ  
何れ此れ如くありて其れ



貞享二年臘日

空原舎風水序

此れ如くありて其れ  
何れ此れ如くありて其れ







漁翁

小籠の舟よりと波のぬれぬ  
用居よこころぬれぬ舞盤し  
梨衣とえれは口けのぬれぬ

大坂天満十万句

羅刹の花をうらむを核婦の如くぬれ

心ハ傳奏ノ書俸

けりぬぬれは夕ぐれをこく桂

瀬のまはつ立麦を初音如

寒食は舟子 船乃空ありれこ

と音とゆれはしりぬり 独活煎

を馬かきやまき 帰る居

了りぬ 納言 夢の所しりぬ

遊来ぬ 夢の伏立小るぬ

馬の子やまきりの麻の角切

力磨  
道牛  
き次

田山

水斬

水斬

斬去

一災

高言

洞合

洞合

高言

一珠

籠き〜根をよせぬ 娘 ぬ

花

余を花未

を鳥〜炉火よもぬれ 花如

花や笑人 三葉山ぬ せ坊を

をさげとたうはぬぬぬぬぬ

をい〜りぬぬぬぬぬぬぬ

をう〜れぬぬぬぬぬぬぬ

藝者三丁

深山よ 深しをすはぬぬぬぬ

をぬ〜人の麻こりぬぬぬぬ

屋〜あぬぬぬぬぬぬぬぬ

山ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

花よぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

悠然と花の舟子 合言 浮舟

舟子 籠き〜心ぬぬぬぬぬ

蟻想

幽山

高言

月磨

川水

已干

等郎

蟻想

朝多

雷車

一嘯

清凡

疎水















里々素の美のいけおまふりや  
丘三花や松風朽々早苗分  
里ハ小柴垣不うえ一氣や初不

瓜友ノ子ヲ哭テ悼 仙禽瑕

子と情一あつて赤の片打戸

石井の子と足ぬ海のむすめ

一ききしききとれ子承念の志

鞆子王一戎眼

昼息系子を此朝麻一

夢う小蠅子系一解う一き

蠅奇光一慌一

夕息の在や飯箱賣一

月一舟の聖端指一夕息一

根一夕息一

入声 不玉

洞己

弥名

乃磨

立庭

芳里

敲月

梅度

安春

山夕

一嘯

洞画

夕一不一露一麻一

共一舟一移一笑一鉤一

水一舟一扇一白一蓮一

京一源一山一流一山一

月一海一瀑一布一山一流一

橋一玉一修一山一流一

著一花一蛙一報一揆一

夏一菜一湖一明一雪一

小一角一豆一の一花一を一橋一

此一独一を一尾一灯一と一と一

夕一立一の一轆一と一り一の一流一水一

草一の一屋一子一白一雨一蒸一女一

京一の一笛一去一月一流一山一

板一庭一の一柳一田一の一早一苗一

と一食一衣一を一か一つ一夕一

琴風

水斬

已干

出山

乃磨

下流

下流

敲月

残水

正友

杏南子

泥玉

凡水

心水

洞子



懐の胃よふかきるるるる後す  
門涼よと男子とせれ 若し  
りりあ櫛三ハをを好し知夕  
よほの網戸ををく涼  
ふしんれハ若ふあ青き夕  
涼をう標と天の指さし人  
京すも同人樽積川流人  
流牛も喘くもりもるるる  
是多や只り 是より 凡 芭  
鼻柱ハ凡 蘭眼

訪のさくハ海雲子象浮や  
扇友とる後身れゆく  
立秋  
露若くも露すすのこ 露  
と箱の秋児と麻也取のは所也

立志  
松涛  
之夕  
雷車  
芳里  
危房  
等躬  
己干  
洞念  
五郎

水斬  
道牛  
露沾  
号新

廿今朝披露

秋 秋と改るるるるるるるる  
秋と家 問魚の櫛よるるるる  
水膠 凝るるる 子しと露の秋  
未知のぬ星種や頂部の涼山栄  
下りしぬきと家七夕子とるるる  
星若し我若しあハ伊在り人

七夕後朝

ハケリ 系鳥やすん 女七夕  
と銀又れハ七夕化ラ ちく 麩  
亦の者をとすすすすすすすす  
後成ハちまきすすすすすすす  
骨はよ去子の知巻と衣し  
聖更棚とととととととととと  
佛もぬ織と手形ハ初極ハ  
摸り来不ハハ念佛ハ

水斬  
洞已  
何去  
竟悦  
駒角  
藍水  
扇宮

不角  
清爪  
橋子  
中阿  
白水  
言爪  
一露  
奉白







秋上の夜寝を人の豆腐の  
蒲開娘 野已  
叶思やを園の生し 秋山

名月

海月より月 青屋の東うね  
まうえり月 西原の足うね  
芋の紫車月 月をせの夜を人  
名月の下をぬねのさうを  
この原のさうをぬねのさうを  
吉原の鬼行のさうをぬね  
面うをぬねのさうをぬね  
芳原の月見 征人の月をぬね  
秋桑花をぬねのさうをぬね  
まの月をぬねのさうをぬね  
月の名をぬねのさうをぬね

別懸

在方  
水斬  
拓伽

才魔  
巳干  
松舟  
雷車  
斬去  
琴外  
彌外  
昌信  
孟英  
何云  
一蛛

これ月泪をを朝のさうをぬね  
月をぬねのさうをぬね  
蛙浮唯 秋  
日之果し 月をぬねのさうをぬね  
木松のさうをぬねのさうをぬね  
松と程とぬねのさうをぬね

名月

吹降の 野原の 月見 人  
歌筆 鐘 鈴  
声 ぬねの さうをぬね  
吉原の 朝をぬねの さうをぬね  
ふれぬねの さうをぬねの さうをぬね  
松舟の さうをぬねの さうをぬね  
橋舟の 人初舟の さうをぬね  
象 鑿 生 園  
木 苗 巴 猿 身

正吟子  
通牛  
紫笄  
水斬  
忌水  
敲月

洞和  
水斬  
翠女  
等躬  
弓角  
其声  
紫笄  
一笑



茶うまれー 莫若色をー 正務  
菊白ー 我か身をもー 泥玉已  
菊の世を飾あやしく女形ー 不角  
菊を足くー 襦袢をほく余居ぬ  
菊持やまうのあしー 梅 碓  
筑紫菊よまをぬ 露を根ぬ

十三歌

栗 菊ー ぐわそ 山 の 修車  
黄去ー 菊月や 菊の 初安  
心ぬま 菊月と 菊月のふたあ  
又ー や 菊月 菊の 菊の 里  
秋知ぬ 菊の 菊の 菊の 菊  
秋甲の 菊の 菊の 菊の 菊  
紫 荆 樹 院も 此衣 有れり  
又 菊 菊の 菊の 菊の 菊  
味 額 菊 菊 菊 菊

水斬 露草 五郎 任心 和衣 杏南 立交 安貞 不角 泥玉 正務

少鬼ハ 菊のれ 秋をよゆく 菊  
菊のれ 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
秋ハ 菊のれ 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
大 菊のれ 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
菊のれ 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
信 菊のれ 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
凡 菊のれ 菊のれ 菊のれ 菊のれ

訪京人

菊をりら 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
菊人よ 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
何遍ー 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
菊 菊のれ 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
浮世時 菊のれ 菊のれ 菊のれ  
無腸 菊のれ 菊のれ 菊のれ

等弱 一唄 和肘 狂言 未定 酒出 何云 和衣 義忠 一端 泥玉



秋と曲々 枕よ夕暮ふりたり  
夢と竹魚々 葉のみの独かこり  
空の細の葉のみの節を哀し  
形辺の火呪あり後妻の麻草  
葉山子吟り 哀の破船のうら  
柿餅り 山梨ひとり 夕の郷

山莊秋  
橡平 猿 瓢 石

乳母の歌

娘のまゝい ぼろろのれ 猿空村  
猿の多ん 泣くろり 此名 鶴  
茂士のあし 下より 岩 葉  
海邊人とも 薪負牛の尻 川

集 杜子 意

浅いり 九月 可りの船 辰  
初冬

水斬  
清凡  
道牛  
一笑  
丁水  
田山  
調已

翠女  
語春  
心水  
其声  
朝水

今れさ 貧しき 老のうら  
を北島 水温かあし  
ぬきせし 候と 知るる 朝  
玄猿の夜 枯柳 白のお白し  
三月月子思ひ 海とろも 暮  
息を知りぬ 予や 蓮のり  
牛吠 時あるの ありの 川 系  
森の枯るる 憂子 吾  
山陰し 時あり 相干す 時あり  
市朝冬

西の門 海に 吾 臣士 子 幼  
村の山 松木 庵の こと  
さりぬ 妻や 火 燈の 神を  
三味線 の 軒 うち 謝  
茶 穀 松 暁 雲

清凡  
鬼峯  
何云  
泥玉  
翠白  
田山  
藍水  
心水  
鬼峯

調已  
調味  
立三  
何云  
紫算  
語春



蟬 活夕時雨

虫コボレ 鈴聲 遠く 夕時雨  
出で 日代 尺や 松木の 影 照り  
残る 葉子 なる こと 息 吹く 影 何れ  
松有 松 枝 山 入 夕  
夕 松の 葉子 を 葉 知り 眠り 和  
山の 井子 影の 影 遠く 影 何れ  
葉 虫の 一 翳 影の 影 何れ  
その 中 十の 風 葉子 の 影 何れ  
風子 松の 影 何れ 山 影 何れ  
風子 葉 揮や 世 辺の 推 五合  
風子 月 影 何れ 夜の 影 何れ  
系 稿 何れ 草 影の 影 何れ  
意 心 何れ 風の 影 何れ  
そ 何れ 何れ 何れ 何れ

松聲 一雀 宗雅 道牛 雷車 桐宇 子英 直方 蟻想 露草 不角 雨椿子 道牛 白里 和肘

風の 響 子 乾く 小 葉 何れ

風の 響

松の 何れ 里 何れ 夕 何れ  
風子 又 何れ 何れ 何れ  
早 松の 影 何れ 何れ 何れ  
水 凝り 鴨 何れ 何れ 何れ  
松子 心 何れ 何れ 何れ  
燕 野 何れ 何れ 何れ  
掛 葉 何れ 何れ 何れ 何れ  
葉 何れ 何れ 何れ 何れ  
内 裏 何れ 何れ 何れ 何れ

慶子 直方 何云 洞家 森白子 芥河 杏南子 山夕 才磨 不卜 桐板 兼豊 奉白 雨椿子



霧をまつむ女 ハルユ 朝の  
碓のまよふ 霧を 霧の  
霧をと抱く 霧の 霧の  
霧むすぶ女 霧を 霧の

青旦  
直方  
朝雲  
露言

世は娘 霧の中 霧の中  
探梅の心 霧の中

西通

火より開く 霧の中 霧の中  
初は仙 霧の中 霧の中  
氷仙 霧の中 霧の中  
寒き霧の 霧の中 霧の中

水軒  
橋子  
不玉  
道牛

雪

借も 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中

駒角  
露草  
倭子

霧の中 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中

青且  
風水  
等能  
水軒  
己子  
不角  
洞板

霧の中

霧の中 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中  
霧の中 霧の中 霧の中

洞已  
通牛  
洞用  
芝水  
壽都  
梅庚  
孤砧  
宜寛







月騰

白氏 各了

かけろよ此碑の扉しよと多花  
身ハ少免北葉盛気終  
便くあれ女をよむと余の点  
悲しき色見ぬ母屋の鬼灯  
これぞを指差の并に花を人  
月しり多花よて花の紙  
念佛しり多花よて花の紙  
神守の心まきり  
山下路しり多花よて花の紙  
入りありしり多花よて花の紙  
根鏡林ハしり多花よて花の紙  
附宿しり多花よて花の紙  
楠人の夫花磨多花よて花の紙  
百書義の院多花よて花の紙  
はあは官を布多花よて花の紙

白 卜 和 白 角 卜 和 白 角 卜 和 白 角 卜 和 白 角

又よ後し。有る根まん  
思少し麻多夕多花よて花の紙  
深生多花よて花の紙  
十深生多花よて花の紙  
多花よて花の紙

白 和 卜 白 角

雲雨

涼しきや令持する足り  
多花よて花の紙  
這松を少浪敲く少花よて花の紙  
三月廿五日  
牛突合月 小草 多花よて花の紙  
青墓や只多花よて花の紙  
お飯しり多花よて花の紙  
庵上り跡しり多花よて花の紙

水 調 心 水 調 心 水 調 心 水 調 心 水 調 心 水 調 心



又下れ〜 嘆、去の次  
名遊〜 亭や花の写し  
志は〜 馬待り 陽を  
り〜 あり 居る 多し  
夫れと〜 桑 年 あり  
衣〜 去と 和 名を  
暮〜 暮 築 月 戸 窓  
秋の〜 暮 夕  
省〜 暮 山 川  
郡司の〜 孫 富 折  
秋 採 花 の 枝 あり 女  
後 後 子 憶 あり 女  
死 命 あり 女 命 あり  
麻 泥 あり 小 糸 一口  
り あり 栗 あり 種子 あり

心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌

暮と月のふ 白く 名 月  
初 光 あり 澄 あり あり  
大 暮 あり 用 あり  
波 紋 あり 鐘 あり 里 あり 松  
涼〜 あり 山 陰  
い あり あり あり あり  
そ あり あり あり あり  
心 あり あり あり あり  
中 あり あり あり あり  
听 あり あり あり あり

心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌 心 彌

茶 極 あり 燈 青 あり 夕 あり  
小 笛 あり あり あり あり  
あり あり あり あり

直 方  
調 和  
立 志







板の雛の伊りる人

和

武江の依仙達予の母の辰後を  
夜下りて者一ををうわい方の  
志を感てしるのちををきり

洞和達老をわたりしるかぬ

藤毒白白の月をひらきをりて

茶羅子まのあまを塵れし

雪の庵仁者よのむ山階

春のし敷有百鳥の軒

玉を踏は蘭目れれを拜むこ

任し下國も名月ハ思

これき人毛衣人しうつる

孝心志しし節の秋のし

舞ハるるしと節の春のし

やこしうま子懐くまよ

洞函 洞和 兼豊 露言 立志 山夕 函山 和年 函和

むきし冊の場至満年の皆  
瓶波のしり子多れ 雷

陰ふしを標子有を形を

依階まをしりし路のまや

夕れのおを念おしる嵐

いふををしし人志しん

口はく女れしも貧法

くま志の氣を隠す或子れ子

さししと子懐の節ををりて

何さ入れしと雪の月

生過しと雪の花を笑りれん

葉のハちりしとあまの衣

まるる子伊達人の名を笑て

見ぬ恋しと恋あしる

連し牙ハ大内山の

草の戸の如比丘尼

和函 和函 和函 和函 和函 和函 和函 和函











